

## 臨床実習開始時に行う「SD章 (Student Doctor 章)」 授与式による医学生へのプロフェッショナリズム教育の試み

### Teaching professionalism in undergraduate medical education using Student Doctor license.

加藤 博之\*、松谷 秀哉\*  
大沢 弘\*\*、若林 孝一\*\*\*  
藤 哲\*\*\*\*、中路 重之\*\*\*\*\*

Hiroyuki KATO, Hideya MATSUTANI, Hiroshi OSAWA,  
Koichi WAKABAYASHI, Satoshi TOH, Shigeyuki NAKAJI

#### 要 旨

【背景と目的】医学生にとって臨床実習は、初めて医療チームの一員として白衣をまとって病院内で活動する生涯忘れ得ない期間であり、そのスタートにあたっては身の引き締まる思いをするのが常である。本学では平成17年度より、このような機会を捉え「SD章 (Student Doctor 章)」授与式を行い、プロフェッショナリズムの涵養を試みているので報告する。【対象と方法】CBTとOSCEに合格し、臨床実習を開始することを許された5年次学生に対し、実習初日にSD章授与式を行った。講堂に一堂に会した5年生に対し、医学部長、学務委員長、附属病院長の訓示の後、附属病院長がSD章を5年生代表の胸に付け授与した。SD章は院内で働くスタッフと同様の顔写真入りのネームプレートである。引き続きSD章を授与された学生の代表が「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を読み上げた。式には教員、コメディカル・スタッフ代表、模擬患者、研修医も出席し、また報道機関による取材も行われた。式後学生にアンケートを行い授与されたときの気持ちを記載してもらった。【結果】学生の感想は臨床実習への前向きな決意、自覚、期待を述べたものが多かったが、期待と不安が交錯する思いを述べているものも少なくなく、未知の世界に足を踏み入れる学生たちの率直な気持ちが表れていた。【結論】臨床実習生が周囲から公認されたSD章を付けることは本人の自覚を促し、医師のプロフェッショナリズムの涵養に寄与するものと思われた。

キーワード：臨床実習、医学生、医師のプロフェッショナリズム、Student Doctor 章、白衣式

---

\* 弘前大学大学院医学研究科総合医学教育学

Integrated Medical Education, Hirosaki University Graduate School of Medicine

\*\* 弘前大学医学部附属病院総合診療部

Department of General Medicine, Hirosaki University Hospital

\*\*\* 弘前大学医学部学務委員長

Chairman, Committee of undergraduate course, Hirosaki University School of Medicine

\*\*\*\* 弘前大学医学部附属病院長

Director, Hirosaki University Hospital

\*\*\*\*\* 弘前大学大学院医学研究科長

Dean, Hirosaki University Graduate School of Medicine

## 本文

### 【背景と目的】

医学教育における臨床実習は、将来医師になるべき医学生が、初めて医療の現場で医療チームの一員として行動しながら、直接患者さんに接して様々なことを学ぶ極めて重要な教育科目である。医学生にとっては医学部に入学後初めて白衣をまとって病院内で医療人の一人として活動する生涯忘れ得ない期間であり、そのスタートにあたっては緊張・不安と期待感が入り混じる気分の高揚を感じ、身の引き締まる思いをするのが常である。一方、近年導入されたCBT（Computer Based Testing）とOSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）は、「臨床実習を開始するにあたり、最低限必要な知識、技能、態度を有する」ことを担保するものとされており、CBTとOSCEに合格し、臨床実習を開始することは医学生にとって「学生からプロの職業人へ」転換する重要な節目であるとも言える。このような節目にあたり、医学生にプロフェッショナリズムを涵養するため、すなわち医療人としての誇りと責任感を持って真摯に臨床実習に取り組む姿勢を育むために、また院内のすべての医療職および患者さんに臨床実習学生を医療チームの一員として認知してもらうために、弘前大学医学部医学科では、平成17年度に「SD章（Student Doctor章）」を制定し、毎年SD章授与式を行っているので、その実際および意義について報告する。

### 【対象と方法】

SD章を授与する対象は、4年次までの必要な単位をすべて取得し、かつCBTとOSCEに合格し、臨床実習を開始することを許された5年生である。毎年4月初めの臨床実習開始時にSD章授与式を行っている。授与式では白衣を着用し講堂に一堂に会した5年生に対し、まず医学研究科長（医学部長）、学務委員長、附属病院長が訓示を行った。特に附属病院長の訓示の中では、「諸君が附属病院で臨床実習を行うことを許可する」との言葉が述べられた。さらに、附属病院長が5年生代表の胸にSD章を付け授与した（図1）。SD章は院内で働く医師をはじめとする医療スタッフが付けているものに準じた顔写真入りのネームプレートである。臨床実習生とわかるように「弘前大学医学部医学科Student Doctor（臨床実習生）○○○○（氏名）」と大きく表示されている（図2）。学生は5年生、6年生の臨床実習期間中は、必ず本章を白衣に付けることとされている。引き続きSD章を授与された学生代表が「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を読み上げた（図3、4）。式には教員のみならず、看護部長、放射線部や検査部の技師長などコメディカル・スタッフ代表、さらに模擬患者や研修医（多くは本学出身で、過去に自らもSD章授与式に出席した経験を持つ）も出席した。また報道機関（地元新聞社）による取材も行われ、翌日の地元紙にはSD章授与式開催の記事が掲載された。式後には学生に自由記載方式のアンケートを行い、授与されたときの気持ちを記載してもらった。また式に参加した模擬患者や研修医にも、感想を記載してもらった。



図 1. 平成17年に行なわれた第1回SD章授与式。附属病院長が、学生代表にSD章を授与するところ。

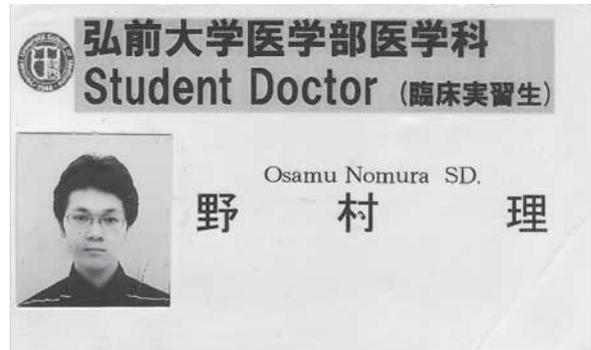


図 2. SD章。附属病院内で勤務する医師が付けているものに準じた顔写真付きのネームカードである。



図 3. 「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を読み上げる学生代表。

## 弘前大学医学部臨床実習生の誓い

臨床実習生の一人として医療の現場に参加するに際し

1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを誓います。
2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。
3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間性の法理に反して医学の知識を用いることはしません。
4. 私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。
5. 私は、私への信頼ゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。
6. 私は、私を教え導く人々に尊敬と感謝の念を捧げます。
7. 私は、私の自由意志に基づき名誉にかけてこれらのことを厳粛に誓います。

図 4. 「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」

## 【アンケート結果】

### 1) 5年生の感想

SD章授与式に参加した学生の感想は、臨床実習への前向きな決意、自覚、期待を述べたものが多かった。以下に代表的な感想を示す。

- 「身の引き締まる思いがしました」(圧倒的多数)
- 「心を新たにして1年間頑張っていきたい」
- 「誓いの言葉に感激しました」
- 「誓いが自分達に求められている全てだと感じた」
- 「代表の学生の宣誓を、幾度も心の中で繰り返しながら、改めて責任を認識させられました」
- 「いよいよ臨床に出るんだと実感した」
- 「これから臨床の場に立つということで、とても気合が入りました」
- 「これからの実習でたくさんのことを学び、吸収し、自分の糧にしていけるよう努力したい」
- 「実習に参加する意欲を改めてかきたてられた。しっかり勉強してSD章に恥じない実習にしたい」
- 「これからStudent Doctor として勉強するんだと思うとワクワクします」
- 「SD章を授与されて、これから自分が医療者の一人として臨床の現場に出てゆく実感がわいてきました」
- 「臨床実習は、今までの学習とは大きく異なり、医療現場に踏み出す第一歩として、とても重要なものだと改めて感じました」
- 「これから実際にBSL (Bedside Learning) が始まり、一人の医療スタッフという目で見られながら、病院内で活動してゆく自分の立場を改めて痛感しました」
- 「学生であるとはいえ、診療の場に出るということは、社会に出ることと同じだと意識して、学生だからと甘えることのないように自覚を持って臨みたい」

一方で、以下のように、臨床実習に対する期待と不安が交錯する思いを述べているものも少なくなく、未熟な存在であることを自覚している学生が、未知の世界に足を踏み入れる際の率直な気持ちが表れていた。

- 「正直とても不思議な気持ちです。ここまで来たんだという感慨深さと、これからやっていけるのかという不安の両方が存在します。いずれにせよ、できるかぎり精一杯頑張りたい」
- 「早く実習に入りたい気持ちもあるが、こんな自分でいいのだろうかという不安もあります。初心を忘れずに頑張っていきたい」
- 「期待3割、不安7割です。班のみんなの足を引っ張らないよう頑張りたい」
- 「これまでの講義室での授業とは全く異なるBSLに対して不安で一杯だが、Student Doctor の名に恥じぬよう、精一杯頑張りたい」
- 「実習は怖いし、不安でいっぱいだけど、なるべくたくさんのことを勉強したい」
- 「これまで4年間一生懸命勉強してきたが、それでもいざ臨床の現場に出るとなると、とても不安を感じる。指導下さる方々や患者さんに迷惑がかからぬよう、最大限努力していきたい」

### 2) 模擬患者の感想

SD章授与式に参加した模擬患者の感想は、学生への期待や応援の気持ちとともに、ボランティア活動としての模擬患者のやりがいや今後への決意について改めて認識し、述べられているものが多かった。

「学生さんの目の輝きが印象に残った」

「今の気持ちを忘れずに、医師になってほしい」

「信頼のおける医師になって頂くことを切に願っています」

「臨床実習へ出る前の区切りとしてのSD章授与式は必要なことと思われまます。厳粛な気持ちにさせられました」

「さらにお役に立てるよう、自分自身に言い聞かせる時間でもありました」

「わずかでも関わりのあった学生の成長する姿を見られることを大変嬉しく思います」

「大きな目標に向かってはつらつと進んでゆく若い人達に、小さな協力ができたかも、と思うと嬉しくなります」

「模擬患者としての小さな力が役に立つことを願って、こちらもさらに勉強してゆくつもりです」

### 3) 研修医の感想

式に参加した研修医の感想は、かつての学生時代の自分の気持ちを思い起こしたり、後輩へのアドバイスを述べているものが多かった。

「2年前の自分の気持ちを思い出した。『誓い』の重みを改めて感じます」

「気合を入れて頑張ってください。実習の知識は今までよりもずっと身につけやすいと思います」

「担当患者さんに関しては徹底的に勉強して臨んで下さい」

「実習で学ぶことは医師になってから後のことに直結しているので、頑張ってください」

## 【考 察】

医療人を育成する際のプロフェッショナリズム教育の一環として、進級などの節目にセレモニーを行うことは、看護師教育では伝統的に行われてきており「戴帽式」やその中での「ナイチンゲール誓詞」の朗読などはよく知られている。最近では医学生に対する卒前教育の一環として、臨床実習開始時にセレモニーを行っている医学部・医科大学は少なくない。セレモニーの名称は、大学により様々のものである。“白衣を着せる”ことに力点を置いている場合は「白衣授与式」(昭和大<sup>1)</sup>、信州大<sup>2)</sup>、愛媛大<sup>3)</sup>)、「白衣式」(慶応義塾大<sup>4)</sup>、三重大<sup>5)</sup>、千葉大<sup>6)</sup>、福島県立医科大学<sup>7)</sup>)、「白衣着衣式」(山口大<sup>8)</sup>)などと呼んでおり、また山形大のように「スチューデントドクター認定証授与式」として賞状型の認定証を授与している大学もある<sup>9)</sup>。さらに徳島大のように「医学部白衣授与式・Student Doctor 認定証授与式」として両者を行っている大学もある<sup>10)</sup>。本学で行っているSD章授与式も、これらと同様に医師のプロフェッショナリズムを涵養する目的を持つセレモニーの一つであり、平成17年にSD章が制定されるのと同時に始まった。SD章およびその授与式制定により期待される具体的な教育効果としては、以下のような点が挙げられる。

1. 医学生に対して、医療人としての自覚、医療チームの一員としての誇りと責任感を持たせることができる。
2. 指導医、看護師等の医療スタッフが、医学生を医療チームの一員として認知するようになる。
3. 患者さんに対し、臨床実習に従事することを認められた医学生であることを明示できる。
4. 下級生にとってSD章を付けた白衣姿の先輩は、自らが目指す目標(あこがれ)となる。
5. SD章授与式を報道機関に公開し、真剣に医学教育に取り組む本学の姿を、学内外の関係者、一般市民に知ってもらう

6. SD章授与式に模擬患者に出席してもらうことにより、模擬患者としての活動を続ける動機付けとしてもらう。
7. SD章授与式に研修医に出席してもらうことが、研修医にとって良い“振り返り”となる。

SD章の制定やその授与式が、長期的に学生にどのような影響を与えているのかを検証することは簡単ではないが、少なくとも式に出席した学生の感想を見れば、臨床実習に臨むにあたっての学生たちの決意や自覚を伺い知ることは可能である。学生たちの感想文を読むと、臨床実習への前向きな決意、自覚、期待を述べたものが多く、座学中心の生活を送ってきた4年生までの自分から、病院内で医療人の一員として日々活動してゆく自分へ転換することを明瞭に認識できており、“節目にあたって気持ちを新たにする”というセレモニーとしての目標は十分達成できているように思われた。しかし一方では、「自分がまだまだ未熟な存在であること」、「これから未知の世界に入ってゆくこと」も認識しており、その結果として当然生ずる不安な気持ちについて言及している感想も少なくなく、転換点にあたって期待と不安が交錯する緊張感が伝わってくる。臨床実習を指導する立場の教員は、このような臨床実習学生の心理を踏まえながら指導してゆくことが肝要であると思われた。

SD章を授与された学生代表が読み上げる「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」は、有名なジュネーブ宣言<sup>11)</sup>をもとに作成したものである。大学によっては、学生にさらに能動的に取り組む姿勢を促すために、毎年学生たち自身に“誓いの言葉”を作成させているところもある<sup>12)</sup>。本学の学生の感想文を見る限り、「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」は思いのほか学生たちに素直に受け入れられているようであり、十分に効果的と思われる。しかし本学のSD章授与式を今後さらに進化させてゆくのであれば、その方向性の一つとして、学生たち自身に“誓いの言葉”を作成させることも一考に値する方法かもしれない。

SD章授与式には、学生と教員だけではなく、コメディカル・スタッフ代表、模擬患者、研修医などにも参加して頂いている。この方々は、新5年生の教育に今まで関わってきた、またはこれから関わってゆく人々である。このような人たちに授与式に列席して頂く意味は、臨床実習生に「君たちは多くの人たちから期待をもって見守られ、育てられている。期待を裏切らないように頑張ってください」というメッセージを伝えることにある。報道機関に式を公開して、新聞に報道記事が掲載されるのも同様の意味がある。すなわち、自らのことが掲載された新聞記事を見た臨床実習生に、「自分たちは、すでにこのように公に知られる立場に立っているわけだから、恥ずかしくない行動をしよう」との自覚を促し、自分を厳しく律することを期待している。

模擬患者の感想からは、式に参加し「自分の関わった（教えた）医学生が、医療の現場に向けて巣立つ」ことに立ち会うことが、模擬患者活動の一つの成果を確認したことになり、それが今後の活動を続けてゆくためのモチベーションに繋がっていることが伺われた。本学の模擬患者は、OSCEの医療面接や、1年生のコミュニケーション教育の実習<sup>13)</sup>にご協力を頂いているが、「医学生が成長する姿を見ることがやりがい」と感じるボランティアの方々であり、SD章授与式は、このようなやりがいを実感することのできる絶好の機会となっていると思われる。

## 【結 論】

臨床実習開始にあたりSD章を授与することは、学生の自覚を促し、医師のプロフェッショナルリズムの涵養に寄与するものと思われた。

謝辞：弘前大学医学部医学科卒業生である野村理先生（現都立小児総合医療センター救命救急科）のご協力に心より深謝します。

## 参考文献

1. 昭和大学ホームページ：  
[http://www.showa-u.ac.jp/topics/2012/20120510\\_000.html](http://www.showa-u.ac.jp/topics/2012/20120510_000.html)
2. 信州大学ホームページ：  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/current/2011/04/1840264.html>
3. 愛媛大学ホームページ：  
[http://www.ehime-u.ac.jp/information/about/publicity/newsletter/detail.html?new\\_rec=8141](http://www.ehime-u.ac.jp/information/about/publicity/newsletter/detail.html?new_rec=8141)
4. 慶応義塾大学ホームページ：  
[http://www.med.keio.ac.jp/education/medicine/white\\_coat.html](http://www.med.keio.ac.jp/education/medicine/white_coat.html)
5. 後藤道子, 津田 司, 横谷省治, 竹村洋典, 佐川典正, 新保秀人：三重大学における白衣授与式の意義とその評価. 医学教育 40：123-127, 2009.
6. 千葉大学ホームページ：  
<http://www.chibauniv-resident.jp/mededu/topics/index.html>
7. 福島県立医科大学ホームページ：  
[http://www.fmu.ac.jp/univ/press/pdf/21\\_2009/0905.pdf#search](http://www.fmu.ac.jp/univ/press/pdf/21_2009/0905.pdf#search)
8. 山口大学ホームページ：  
<http://www1.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/news/article-99.html>
9. 山形大学ホームページ：  
<http://www.yamagata-u.ac.jp/jpn/you/modules/topics0/article.php?storyid=394>
10. 徳島大学ホームページ：  
<http://www.tokushima-u.ac.jp/docs/2012042400036/>
11. 日本医師会ホームページ：世界医師会ジュネーブ宣言  
<http://www.med.or.jp/wma/geneva.html>
12. 戸谷 遼、奥山訓子、神山圭介、安井哲也、長谷川奉延、平形道人、渡辺賢治：  
Medical professionalism 教育の一環としての白衣式における誓いの言葉プロジェクト. 医学教育 42：283-287, 2011
13. 加藤博之、松谷秀哉、大沢 弘：医学科1年次学生に対する、模擬患者によるコミュニケーション実習の試み. 21世紀教育フォーラム 第6号：31-39, 2011